

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

平塚市教育委員会

1 はじめに

令和5年4月に実施した「令和5年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心を持っていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域と連携し、一体となって平塚市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部を測定したものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果を本市の児童生徒の学力や学習状況を把握する資料の一つであると捉え、児童生徒一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

市民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨を御理解いただくとともに、本市の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

2 調査の概要

○調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

○調査実施日

令和5年4月18日（火）

○調査対象

小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

○調査内容

(1) 教科に関する調査（小学校 国語、算数、中学校 国語、数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、次のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

<児童生徒に対する調査>

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

<学校に対する調査>

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

3 教科に関する調査について

◎教科別調査結果

<小学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.0問 / 14問	64%	9.0問	3.1
算数	9.7問 / 16問	61%	10.0問	4.0

<中学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	10.2問 / 15問	68%	11.0問	3.4
数学	7.6問 / 15問	51%	8.0問	3.9
英語	7.7問 / 17問	46%	7.0問	4.1

<用語説明>

平均正答数：児童生徒の正答数の平均。(/ の右側は総問題数)

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。
平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。
標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値が全て同じ)ことを意味する。

◎各教科の結果の概要

〔 グラフ(レーダーチャート)は各教科の内容又は領域・観点・問題形式別に表したもの
◇…多くの児童生徒ができていない内容 ◆…課題が見られる内容 〕

【小学校国語】

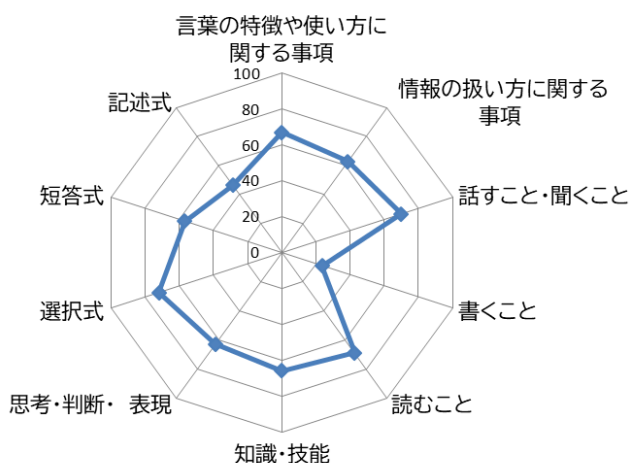
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」については、全国の正答率と同程度であり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「書くこと」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っており、「短答式」については、全国の正答率を下回っている。特に「記述式」については、正答率が5割未満、「短答式」については、正答率が7割未満、且つ全国を5ポイント以上下回っており、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う。

◇文章の種類とその特徴について理解している。

◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。

◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

【小学校算数】

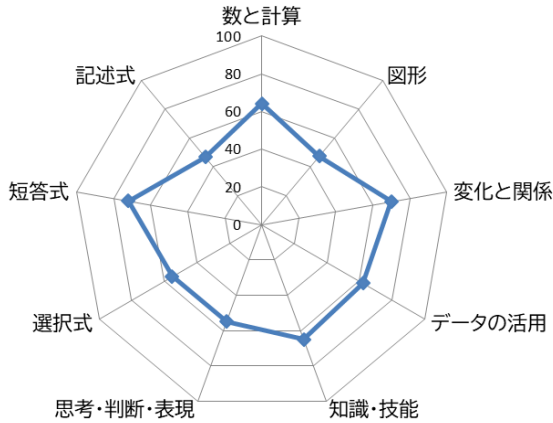
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

領域別に見ると、「数と計算」、「変化と関係」、「データの活用」について、全国の正答率をやや下回っている。特に「図形」については、全国の正答率と同程度ではあるが、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」、「短答式」について、全国の正答率をやや下回っている。「記述式」については、全国の正答率と同程度ではあるが、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇正方形の意味や性質について理解している。

◇伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める。

◇伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係はないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる。

◆(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える。

◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。

【中学校国語】

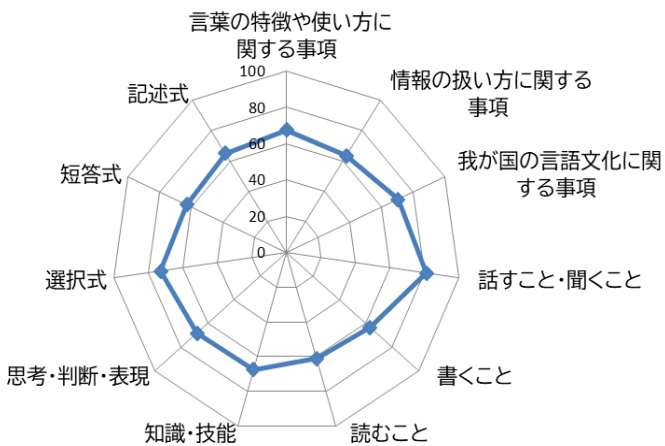
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」については全国の正答率と同程度であり、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、全国の正答率をやや下回っている。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率と同等であり、「短答式」、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇目的や場面に応じて質問する内容を検討する。

◇事象や行為、心情を表す語句について理解している。

◆文脈に即して漢字を正しく書く。

◆文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。

【中学校数学】

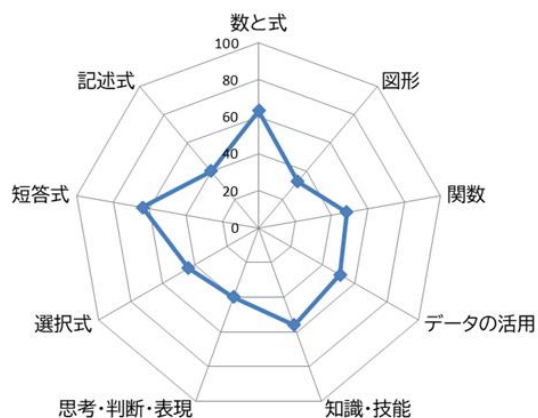
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国と同等である。

領域別に見ると、「データの活用」については、全国の正答率をやや上回っている。「数と式」、「図形」については、全国の正答率と同程度であり、「関数」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「図形」、「関数」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、「知識・技能」については、全国の正答率と同程度であり、「思考・判断・表現」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「思考・判断・表現」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、「短答式」については、全国の正答率をやや上回っている。「選択式」、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



- ◇数と整式の乗法を計算する。
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉える。
- ◇累積度数の意味を理解している。
- ◆空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。
- ◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

【中学校英語】

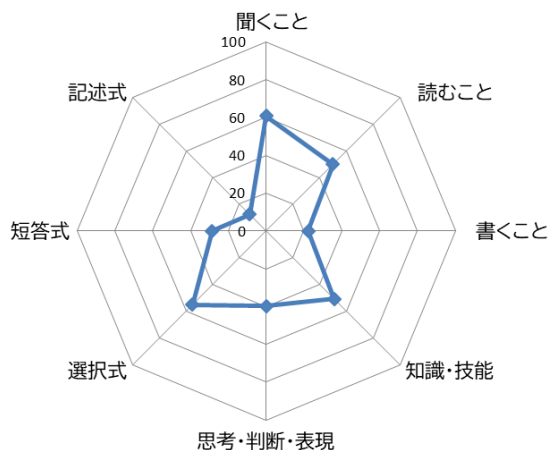
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国と同程度である。

領域別に見ると、「聞くこと」については、全国の正答率をやや上回っており、「読むこと」、「書くこと」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「読むこと」、「書くこと」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率と同程度であるが、「思考・判断・表現」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率と同程度であり、「短答式」、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「短答式」、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



- ◇情報を正確に聞き取る。
- ◆日常的な話題について、短い文章の概要を捉える。
- ◆未来表現 (be going to) の肯定文や疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く。

4 児童生徒質問紙調査について

<生活習慣や学習環境等に関する調査結果> (抜粋)

質 問 内 容	小学校		中学校	
	平塚市立	全国公立	平塚市立	全国公立
朝食を毎日食べている。	92.0%	93.9%	89.1%	91.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.8%	81.0%	70.9%	78.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.7%	90.5%	87.2%	91.3%
自分には、よいところがあると思う。	80.8%	83.5%	75.8%	80.0%
将来の夢や目標を持っている。	80.7%	81.5%	62.8%	66.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	97.4%	96.9%	93.1%	95.5%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.2%	95.9%	92.7%	94.6%
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	66.7%	70.7%	50.3%	55.0%
学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	26.6%	25.6%	41.7%	33.7%
学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間が、30分未満。	23.3%	16.0%	19.3%	15.9%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり10分以上、読書をする。	57.1%	60.0%	41.9%	49.4%
今住んでいる地域の行事に参加している。	54.3%	57.8%	35.1%	38.0%
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	80.7%	81.8%	75.3%	79.7%

※数値には、「どちらかといえば」「時々」を含む。

<教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関係>

※児童生徒質問紙の質問の回答状況と各教科の調査結果を比べ、相関関係(2つの項目の間の何らかの関係性)が見られたものを抜粋。(必ずしも因果関係を示したものではない。)

◎次のように回答した児童生徒に、正答率が高い傾向が見られる。

【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。

【学習習慣、学習環境等】

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。(学校の授業の予習や復習を含む)
- ・新聞を読んでいる。
- ・読書が好き。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- ・学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
- ・授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていた。

【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】

- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた。

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

- ・算数〔数学〕の勉強は好きだ。
- ・算数〔数学〕の授業の内容はよく分かる。

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）】

- ・英語の勉強は好きだ。

【各教科に関する調査の解答状況】

- ・今回の国語では、解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。
- ・今回の算数〔数学〕では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（説明する）問題について、最後まで解答を書こうと努力した。

※【 】は、「令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（質問紙調査）」（令和5年8月文部科学省 国立教育政策研究所）による分類

※〔 〕は、中学校の設問

5 今後に向けて

市教育委員会では、本市の児童生徒が確かな学力を身に付けていくため、本調査結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に提供しました。各学校では、本市全体の結果分析を踏まえ、各学校の調査結果の多面的な分析と検証を行い、自校のよさや課題を踏まえた取組を学校全体で組織的・継続的に進めていくことが重要であると考えます。市教育委員会として、各学校が、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図ることができるよう、各学校の状況に応じ、必要な指導や支援を行ってまいります。

本調査は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえて、知識と活用を一体的に問うものになっています。

本市全体の調査結果を見ると、小学校国語・算数及び中学校国語の平均正答率は全国をやや下回りましたが、中学校数学は全国と同等、中学校英語は全国と同程度となりました。

本調査からは、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことや、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動ができる児童生徒ほど、学力の定着との関わりが見られる傾向にあることが分かりました。

また、各教科に共通した課題として、状況や目的に応じて、必要な情報を選び、自分の考えをまとめることが挙げられました。話を聞いたり発表したりする言語活動に加え、必要な情報を引用して文章にまとめるなどの文章を書く言語活動の充実を一層図ることが大切だと考えます。

児童生徒が、自ら課題意識を持って粘り強く、仲間とともに学び合いながら主体的に学習に取り組める

ように、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行うと同時に学習の過程や成果を評価していくことが必要だと考えます。

その際、児童生徒に学習目標を提示し、児童生徒が、学習の見通しを持って学習したり、学習した内容を振り返る活動を計画的に取り入れたり、ある教科等で学習した内容を他の学習や日常生活に生かしたりするなどして学んだ実感を得られるようにすることも、学習内容の定着や学習意欲の向上に資するものと考えられます。

また、お互いを認め合える人間関係が築けるよう、児童生徒が安心して学べるような教育活動を各学校で進めていくことも大切だと考えます。

市教育委員会としては、これまでも学習指導要領の基本的な考え方とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、評価の仕方等を含めた研修会を行ってきましたが、今後も各学校の教育活動が円滑に実施されるよう、管理職の研究会や各種担当者会において、必要な研修を行ってまいります。

児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。今後とも、市民の皆さまの学校教育・家庭教育への御理解と御支援・御協力をよろしくお願いいたします。